

みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)

<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

●発行：2016年1月 医療連携センター

Contents

- | | |
|------------------------------|-------------------------------------|
| ■ 2016 年のご挨拶 …………… 1 | ■ 新任医師のご紹介 …………… 4 |
| ■ 地域連携と歯科口腔外科 チーム医療の立場から … 2 | ■ 第20回4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会開催のご報告 … 4 |
| ■ 3.0テスラ MRI共同利用開始について … 3 | |

2016年のご挨拶



横浜市立みなと赤十字病院
院長 四宮 謙一

明けましておめでとうございます。

横浜市立みなと赤十字病院もいよいよ次の10年を迎えることになりました。開院以来の10年間は、新患外来数と新患入院数、手術数、紹介率、逆紹介率などの診療実績が着実に向上いたしました。これも、地域の先生方とのスモールカンファレンスやレベルの高い研究会などの取り組み、医療連携センターを通じた情報交換など、登録医の先生方と当院とのつながりが緊密になってきた結果であると考えています。最近では在院期間が10日前後となってきており、比較的先進的な診療内容に加えて、効率的な医療も実現しつつあるとも考えています。

2015年度には外傷に特化した外傷センターを救命救急センター内で発足させましたが、救急車の受け入れは過去最高の12,700台と全国でトップレベルの受入数となり、今後も24時間365日の救急医療をさらに充実させて地域医療を支えていきたいと考えています。

昨年後半には心臓血管外科を大幅に強化することができましたが、以前からこの地域の中心的存在であった循環器内科やICU（施設基準1）・HCU・CCUと一体となり、重症循環器疾患の常時受け入れが可能な体制となりました。横浜市のハートセンターとしての役割を果たしていきたいと考えています。

がんセンターはカンサーボードの充実、外来化学

療法センターの利用件数、PET-CT検査数、がん相談室利用者数の増加、がんサロン整備、横浜南病病連携会の拡大、緩和ケアセンターへの受け入れ拡大など、地域がん診療連携拠点病院として確実に実績を上げていると考えています。また当院では手術支援ロボット da Vinciや、腹腔鏡手術などの低侵襲手術は一般的な手術となってきました。癌腫中でも乳腺外科症例数は激増しており、同時に乳房を再建することにより、患者さんの心の痛みを少しでも和らげることができるようになってきたと考えています。

4大死因である、がん、心臓疾患、肺炎、脳血管障害などに対して、内視鏡検査や3T MRIなどの高機能画像撮像装置を駆使した人間ドックは、受診者数が急速に伸びており、今後も病院併設型の特徴を生かした地域に根差した疾患予防に努めていきたいと考えています。

超高齢化社会に伴って運動器疾患が急激に増加しています。2016年4月からは骨粗鬆症外来を充実させて、最先端の骨粗鬆症診断と治療を行う予定ですが、同時に低侵襲手術を発展させたいと考えています。運動器疾患は当然ながら経過が長く、地域と一体となった医療が必要で、ますます医療連携を進めていきたいと考えています。

最後になりましたが、日本は今まで経験したことのない超高齢化社会を迎えており、次の10年は効率的な地域完結型医療が望まれています。我々もそれに向かって小さな一歩ですが、1階の外来ホール正面に区ごとのわかりやすい大きな登録医掲示板を設置し、逆紹介を行う際に、患者さんの利便性が高まるようにいたしました。当院の立ち位置は、「地域医療の中での高度急性期病院」と考えておりますので、皆様のご指導とご鞭撻の程を心よりお願い申し上げて、新年の挨拶と代えさせていただきます。

地域連携と歯科口腔外科 チーム医療の立場から

歯科口腔外科 部長 向 山 仁

私たち歯科口腔外科は開院の平成17年度にリハビリテーション科、看護部とともに口腔ケアサポートチームを設立して、当院病棟での療養の支持療法として口腔ケアが有効に実践できるような体制づくりを行い、臨床・院内教育・臨床研究を行ってきました。平成27年度より口腔ケア・嚥下リハビリテーションチームとして、さらにチームとしての組織を拡充するとともに、当院栄養委員会の下部組織として活動を行なうことを開始しました。

現在このチームの院内での臨床活動としては口腔ケアに関しては誤嚥性肺炎の発症を防ぐための口腔ケア、周術期における口腔ケアを主なターゲットとし看護師からの電子カルテからのチーム依頼で対応し症例数を重ねています。摂食嚥下リハビリテーションについては毎週水曜日に症例のカンファレンスを行い、直接訓練やVFや療養状況をもとに多職種カンファレンスを行い、口腔環境を整え、より良い摂食嚥下リハビリテーションを目指しています。

急速に高齢化が進む今、療養は病院で終わる時代ではなくなってきました。在宅や介護施設など様々な療養の形があります。われわれの活動も退

院で終わるのではなく院外の医療機関はもとより地域の医療・介護関係職種の方々との連携のもとに行われ、それぞれの療養の場に適した形での療養、すなわち、シームレスな療養へとつなげていくことが必要と考えています。われわれは笹川記念保健協力財団の2015年度のホスピス緩和ケアにおける研究助成課題「ホスピス緩和ケアにおける口腔ケアの有効な実践～地域医療における口腔ケアの向上～」のご支援により地域でのより良い連携の在り方を検討するために、院外での調査研究活動を開始しました。先日は地元中区で第一回の研修会を「より良い在宅療養支援をめざして、お口の管理から」というテーマで口腔ケア・摂食嚥下リハビリテーションの理解を深めることを目的として在宅療養を支える様々な職種を対象に実施しました。今後、周術期の口腔管理についても講演会を実施する予定です。より良い医療の実現のためには良好な地域連携は必須であり、この確立のために、様々な形で地域の様々な職種の皆様と交流を深めて、より良い地域連携の確立のために努力をしてゆきたいと思います。今度ともどうぞよろしくお願い致します。



中区研修会風景



歯科口腔外科スタッフ

3.0テスラMRI共同利用開始について

日本初 Ambient In Bore Experience 搭載

PHILIPS 社製 3.0T-MRI 装置 導入



いままでの MRI 検査のイメージを覆す環境システム Ambient In Bore Experienceとは

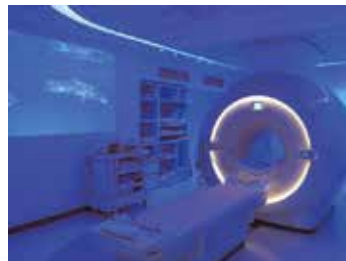
従来の検査室は無機質で少し緊張する検査の一つではなかったでしょうか？今回導入した検査空間は照明やモニターなどを駆使して快適な空間としてご提供することができます。また、従来撮影をしている間は MRI 装置の筒中で検査を受け閉塞感を感じたことと思います。この問題に関してもモニターを駆使し、まるで映画館の映像をみているような感覚で閉塞感のない検査を提供することができます。閉所恐怖症の方など、今まで MRI検査が苦手な方にも既に多くの反響を頂いております。これまでにない検査を提供し、さらなるサービスの提供を行っていきます。

神奈川県内1号機となる最先端MRI装置（フィリップス社製 Ingenia3.0T-CX-Dual）

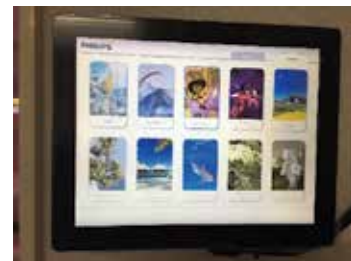
脳・脊椎・関節など病気を早期発見することができ、さらに今まで撮影が難しいとされていた心臓や乳房も撮影が可能となります。



（アニメ映像）



（イルカ映像）



（ご自身で画像を選択出来ます）

時間外MRI検査予約が変わりました（平日時間内は現行どおり）

	月	火	水	木	金	土
9：00～11：30	×	×	×	×	×	○
17：00～18：00	○	×	○	×	○	×

新任医師のご紹介

新しく就任した医師をご紹介します。
今後地域の先生方と地域医療の連携を推進していきたいと存じますのでどうぞよろしくお願いいたします。

*** 質問項目 ***

- ①診療科 ②取得指導医、専門医 等
③卒業大学 ④卒業年 ⑤趣味
⑥地域の先生方へ一言！

コバヤシ ナナセ
小林 七彩



- ①精神科
③宮崎大学
④平成25年
⑤食べ歩き、写真、音楽
⑥「地域に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いします。」

イジマ マサヒデ
飯嶋 真秀



- ①神経内科
③鹿児島大学
④平成25年
⑤遺跡巡り
⑥「地域にお役に立てるように、一所懸命にがんばります。」

ツチャ ユウスケ
土屋 勇輔



- ①循環器内科
③愛知医科大学
④平成22年
⑤サッカー
⑥「精一杯頑張ります。」

第20回4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会のご報告

10月7日（水）横浜ベイシェラトンホテルで第20回4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会を開催しました。

この会は、当院医局医師と近隣4区(中区・磯子区・南区・西区)医師会医師と、顔の見える連携構築のため開催する研究会です。

今回は、西区医師会より三ツ沢ハイタウンクリニック院長 増田英明先生に「西区における在宅医療連携」を、進藤医院院長 進藤邦彦先生に「自験例250例の3D(CT)ーColonographyー重複がんを含めた大腸がん症例と潰瘍性大腸炎・急性増悪期の3D(CT)画像～」のご講演、当院から心臓病センター長沖重薫先生が「冷凍カテーテルアブレーション治療」と、心臓血管外科部長の伊藤智先生が「両側内胸動脈を使用した心拍動下冠動脈バイパス術～適応と治療成績～」を講演しました。

研究会終了後は、情報交換会を開催し交流を深める有意義な会となりました。



三ツ沢ハイタウンクリニック 増田院長



進藤医院 進藤院長



研究会の様子



情報交換会の様子

紹介患者さんのお問い合わせご予約は医療連携課

電話 045-628-6365（直通）／FAX 045-628-6367（直通FAX）



横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12番1号
TEL 045-628-6100(代表) FAX 045-628-6101